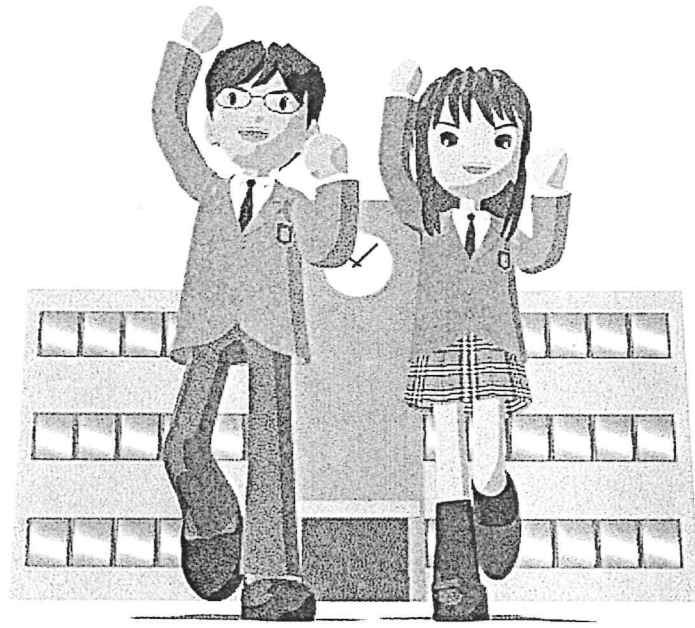


令和7年度

シラバス



普通科3年

--

国語		2
地理歴史		10
公民		14
数学		16
理科		22
保健体育		26
外国語(英語)		28
家庭		32
理数		34

入 学 年 度			令 和 5 年 度				備 考		
学 年			1	2	3	計			
教 科	科 目	標準 単位							
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	現代の国語	◎2	2			2	国語表現、古典探究履修者は、2,3年次継続履修	
		言語文化	◎2	2					2
		論理国語	4		2	2			4
		文学国語	4		2	2			4
		国語表現	4		★2	★2			★4
		古典探究	4		★2	★2			★4
	地理歴史	地理総合	◎2	2				2	地理探究、日本史探究履修者は、2,3年次継続履修
		地理探究	3		■2	■3		■5	
		歴史総合	◎2	2				2	
		日本史探究	3		■2	■3		■5	
	公 民	公共	◎2		2			2	
		政治・経済	2			2		2	
	数 学	数学Ⅰ	◎3	5				5	3年次の数学Cは、2年次に理数探究基礎を履修したものが選択履修
		数学Ⅱ	4		2	2		4	
		数学A	2		2			2	
		数学B	2			2		2	
		数学C	2			★2		★2	
	理 科	科学と人間生活	◎2	2				2	3年次の生物は、2年次に生物基礎を履修したものが履修
		物理基礎	○2		▲2			▲2	
		化学基礎	○2		2			2	
		化学	4			△4		△4	
		生物基礎	○2		▲2			▲2	
		生物	4			△4		△4	
	保健体育	体育	◎7～8	3	2	3		8	
		保健	◎2	1	1			2	
	芸 術	音楽Ⅰ	○2	□2				□2	
		美術Ⅰ	○2	□2				□2	
		書道Ⅰ	○2	□2				□2	
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	◎3	5				5	
		英語コミュニケーションⅡ	4		2	2		4	
		論理・表現Ⅰ	2		3			3	
		論理・表現Ⅱ	2			3		3	
	家 庭	家庭総合	◎4		2	2		4	3年次の理数探究は、2年次に理数探究基礎を履修したものが選択履修
	情 報	情報Ⅰ	◎2	2				2	
	理 数	理数探究基礎	1		★2			★2	
		理数探究	2～5			★2		★2	
	科 目 単 位 数 計			28	28	29		85	
総探	福山みらい創業塾		◎3～6	2	2		4		
	キャリアプラン					1	1		
合 計			30	30	30		90		
特活	ホ ー ム ル ー ム 活 動		1	1	1		3		
週当たり総時数			31	31	31		93		

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科	国語		履修学年	3学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	論理国語		単位数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚を深め、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。 (4) 実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図の応じた適切な題材を決めること。								
教材		使用教科書 東京書籍 新編論理国語 副教材 尚文出版 漢字パーフェクトクリア								
学習の内容	1 学 期	4月	1	時代をひらく	・ 論理展開に注意して評論を読み、扱われている問題を的確に捉える。		一学期中間	○	○	○
		5月			・ 未知の世界に飛び込んでゆく勇気や、本当の豊かさについて思考を深める。					
		6月	2	新しい視点から	・ 体験に基づく文章を読み、表現に注意して筆者の考えを捉える。		一学期期末	○	○	○
		7月			・ 筆者の思考を手がかりにして、自分の日常を見つめ直す。					
	2 学 期	9月	3	科学と人間	・ 科学や哲学の見地から書かれた評論を読んで、人間について考えを深める ・ 人間に対する筆者の考えを捉え、人間の意志や自由について理解を深める。		二学期中間	○	○	○
		10月	4	豊かな認識	・ 評論を読んだ的確に理解し、論じられている物事への認識を深める。 ・ 言葉の働き、また科学的視点の持ち方とその意義などについて理解し、考える。			○	○	○
		11月	5	知のゆくえ	・ 対比に注意して評論を読み、筆者の主張を的確に捉える。		二学期末	○	○	○
		12月			・ 情報と知識、思考について現代を生きるうえで必要な態度を考える。					
	3 学 期	1月	6	明日を見つめて	・ 具体と抽象に着目して、評論の内容を的確に読み取る。 ・ 例と説明、部分と全体の関係を読み取り、内容を理解し考える。		学年末	○	○	○
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)しっかりと活動に参加することが大事です。 (2)提出物はきちんと取り組み期限を守り、必ず提出しましょう。 (3)ノートはしっかりと取り、その上で自分でわかりやすいようにまとめる工夫をしましょう。							
評価方法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート・作文・発表) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備考欄		週末課題も成績に考慮します。きちんと、取り組みましょう。 国語力は全ての教科の基本です。しっかりと取り組み力をつけましょう。								

教 科	国語	科 目 名	論理国語
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解し、日常生活の中で使いこなせる。	おおむね理解し、日常生活で使うことができる。	理解していない、使うことができない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えが深く記せ,表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ノート	自分の考えが深く記せ,表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ワークシート	自分の考えが深く記せ,表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	作文 レポート	自分の考えが深く記せ,表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	発表	自分の考えを深く,表現豊かに発表している。	ある程度の長さで,自分の考えを発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い発表をしている。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し,自分なりにまとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写せていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り,改善点を見いだししている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りできていない。
	提出物	課題 提出物	完全に提出ができ,内容もきちんと記せている。	提出ができ,内容もある程度記せている。	提出ができていない。内容が記せていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え,次への発表へ活かそうとしている。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科 科目名	国語 「文学国語」	履修学年 単 位 数	3学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
							知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主体的に学習に取り組む態度
学習の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 (4) 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して表現したいことを明確にする。葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。							
教 材		使 用 教 科 書 大修館書店 新編文学国語 副 教 材 国語必携 パーフェクト演習							
学習の内容	1 学 期	4月 1 心を見つめる	・ 具体例をもとに、筆者のメッセージを読み取る。 ・ 文体の特徴や表現に注目し、その効果を考える。			中 間	○	○	○
		5月 2 小説を楽しむ(二)	・ 登場人物の視点や表現の特色に注目し、その働きを意識しながらよむ。 ・ 登場人物の考え方を捉え、自分の考えと比較しながら考えを広げる。				○	○	○
		6月 古典の世界 4	・ 登場人物の設定や描写の仕方をとらえ、読みを深める。			一 学 期 期 末	○	○	○
		7月 4 短歌・俳句に親しむ	・ 形式や表現に注意して短歌・俳句を読み味わう。 ・ 印象的に表現するための言葉や表現を工夫する。				○	○	○
	2 学 期	9月 3 文化を感じる	・ 筆者の考える人を感動させるための方法を考える。 ・ 引用された作品を読み、解釈を深める。			二 学 期 中 間	○	○	○
		10月 5 小説を味わう 古典の世界 5	・ 登場するものたちの性格や心理を読み取る。 ・ 作品のおもしろさと、込められた寓意性を読み取る。 ・ 作品の概要や文体の特徴を知り、文学史上の位置づけを理解する。				○	○	○
		11月	・ 歴史の中で生きた人間の人物像や心情を読み取り、作品の読みを深める。			二 学 期 期 末	○	○	○
		12月 6 名作を読む	・ 登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。 ・ 優れた表現に触れ、読み味わう。				○	○	○
	3 学 期	1月 7 文学を生み出す	・ さまざまな小説を読み、構成や表現の工夫を読み取る。			卒 業 考 査	○	○	○
		2月							
3月									
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)しっかりと活動に参加することが大事です。 (2)提出物はきちんと取り組み期限を守り、必ず提出しましょう。 (3)ノートはしっかりと取り、その上で自分でわかりやすいようにまとめる工夫をしましょう。							
評 価 方 法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート・作文・発表) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備 考 欄		週末課題も成績に考慮します。きちんと、取り組みましょう。 国語力は全ての教科の基本です。しっかりと取り組み力をつけましょう。							

教 科	国語	科 目 名	文学国語
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解し、日常生活の中で使いこなせる。	おおむね理解し、日常生活で使うことができる。	理解していない、使うことができない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしていない。
	授業	ノート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしていない。
	授業	ワークシート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしていない。
	授業	作文 レポート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしていない。
	授業	発表	自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い発表をしている。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりにまとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写せていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだししている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りできていない。
	提出物	課題 提出物	完全に提出ができ、内容もきちんと記せている。	提出ができ、内容もある程度記せている。	提出ができない。内容が記せていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、次への発表へ活かそうとしている。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	国語		履修学年	3学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	「国語表現」		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。								
教 材		使 用 教 科 書 大修館書店 国語表現 副 教 材								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	言葉で遊ぶ	・様々な言葉遊びを味わい創作意欲を高め、自らの表現力を向上させる。			1 学 期 中 間	○	○	○
			無人島で生き残れ	・グループ活動をととして、合意形成に至る建設的な話し合いと柔軟な発想ができる力を養う。				○	○	○
		5月	日常生活の正しい過ごし方	・「トリセツ」の制作をととして、その特徴を捉え、社会生活に役立つ表現を学ぶ。			1 学 期 期 末	○	○	○
		6月	魅力的なポスターを作ろう	・ポスター作りをととして、その多様な構成要素に着目し、表現の工夫について考える。				○	○	○
			「わが町自慢」のパンフレット作り	・パンフレット作りをととして、様々な表現上の工夫について学び、自らの表現力を高める。				○	○	○
	2 学 期	7月	働く人にインタビュー	・インタビューをととして、話す・聞く・書くといった総合的な国語力を養う。			2 学 期 中 間	○	○	○
			たほいやゲームをしよう	・ゲームをととして言葉の定義に対する意識を高め、語彙力を豊かにし、言葉の感覚を磨く。				○	○	○
		9月	みんなで作ろう国語辞典	・国語辞典の構成要素や特徴を理解し、言葉を観察し、言葉についての意識を高め、感性を豊かにする。			2 学 期 期 末	○	○	○
			「私の虫類図譜」を作ろう	・辻まことの『忠類図譜』を参考に、自分の作品を作り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。				○	○	○
		10月	エッセイを書こう	・読み手を意識しながら表現を工夫して文章を書くことをととして、自分の中から話題を絞り出す訓練をする。				○	○	○
			演説合戦にチャレンジ	・演説合戦をととして、筋道を立てて考える力、わかりやすく説得力のある説明をする力、多くの人にしっかりと語りかける力などを養う。				○	○	○
	3 学 期	11月	こちら悩みごと相談室	・文章から書き手の心理を読み取り、それに対して適切な態度、表現で回答することで、書くことによって伝え合う力を高める。			卒 業	○	○	○
		12月						○	○	○
		1月 2月 3月	開廷！模擬裁判	・模擬裁判をととして、議論や論証の構造を判断する力や、思考の過程や結論を適切に表現する力を養う。				○	○	○
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)しっかりと活動に参加することが大事です。 (2)提出物はきちんと取り組み期限を守り、必ず提出しましょう。 (3)ワークシートにしっかりと取りくみましよう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート・作文・レポート・発表) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		週末課題も成績に考慮します。きちんと、取り組みましよう。 国語力は全ての教科の基本です。しっかりと取り組み力をつけましよう。								

教 科	国語	科 目 名	国語表現	
-----	----	-------	------	--

知識・技能	到達目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ワークシート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	作文 レポート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	発表	自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い発表をしている。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りできていない。
	提出物	課題 提出物	完全に提出ができ、内容もきちんと記せている。	提出ができ、内容もある程度記せている。	提出ができない。内容が記せていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、次への発表へ活かそうとしている。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	国語		履修学年	3学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	「古典探究」		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。								
教 材		使用教科書 第一学習社 標準古典探究 副 教 材 浜島書店 新訂版最新国語便覧								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	説話(三)	・ 昔話として現在まで継承された話を読み、現実と非現実が入り交じる世界に生きる登場人物の心境を読み取る。 ・ 説話という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。			一 学 期 中 間	○	○	○
		5月	逸話	・ 中国古典の寓話・小話から現代にも通用する教訓を学び、漢文に対する興味を更に深める。				○	○	○
		6月	物語(二)	・ 物語文学の代表作を読み、人物造形や心理描写を丁寧に読み解き、宮廷貴族社会の在り方、物への見方感じ方に触れ、自身の考えを広げたり深めたりする。 ・ 登場人物の行動を読み取る描写を味わうとともに、人物を評価する語り手の視点や判断基準を考え、歴史政治について理解を深める。			一 学 期 期 末	○	○	○
		7月	項羽と劉邦	・ 登場人物の描写を読み解くことを通して、人間の生き方についての考察を深める。				○	○	○
	2 学 期	9月	日記	・ 平安女流日記を読み、内面を綴った心理描写に触れ、自分を客観的に見つけた作者像への理解を深める。			二 学 期 中 間	○	○	○
		10月	諸家の思想	・ 『論語』と並ぶ諸家の古典を読み、中国古代思想について理解を深める。 ・ 自らの主張を効果的に相手に伝えるために、寓話や対句や対比などの構成や展開、表現上の特色について学ぶ。				二 学 期 期 末	○	○
		11月	物語(三)	・ 軍記物語を読んで、登場人物の行動と、それを支える思想や歴史的背景を理解し、考えを深める。			○		○	○
		12月	名家の文章	・ 簡潔で洗練された表現を味わうとともに、作者が話に託した思いを読み取り、ものの見方や考え方を深める。			○	○	○	
	3 学 期	1月	評論	・ 古典の作品や人物に関する批評を読み、古文を評価する態度や基準について考えを深める。			卒 業	○	○	○
	2月 3月									
学習の方法		(1) しっかりと活動に参加することが大切です。								
予習・復習 ノート等		(2) 提出物はきちんと取り組み期限を守り、必ず提出しましょう。								
		(3) ノートはしっかりと取り、その上で自分でわかりやすいようにまとめる工夫をしましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート・作文・発表) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		週末課題も成績に考慮します。きちんと、取り組みましょう。 国語力は全ての教科の基本です。しっかりと取り組み力をつけましょう。								

教 科	国語	科 目 名	古典探究
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	理解している。	理解していない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ノート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ワークシート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	発表	自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い発表をしている。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりにまとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写せていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだししている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りできていない。
	提出物	課題提出物	完全に提出ができ、内容もきちんと記せている。	提出ができ、内容もある程度記せている。	提出ができない。内容が記せていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、次への発表へ活かそうとしている。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。

鹿児島県立福山高等学校		教科 科目名	地理歴史 地理探究	履修学年 単 位 数	3学年 3単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養うことを目指す。					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		使用教科書： 二宮書店 地理探究 帝国書院 標準高等地図 補助教材： 二宮書店 地理探究ワークブック				1 学 期 期 末	○	○	○
教 材							○	○	○
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	イントロダクション	オリエンテーション		2 学 期 中 間	○	○	○
		5月	第1編 第4章 人口、村落・都市	①人口を理解する。 ②村落・都市を理解する。			○	○	○
		6月					○	○	○
		7月	第1編 第5章 文化と国家	①生活文化と言語・宗教を理解する。 ②国家とその領域を理解する。			○	○	○
	2 学 期	9月	第2編 第1章 地域区分	①地域区分を理解する。		2 学 期 期 末	○	○	○
		10月	第2編 第2章 現代世界の諸地域	①中国と朝鮮半島を理解する。 ②東南アジアと南アジアを理解する。			○	○	○
		11月		③西アジアと中央アジアを理解する。 ④北アフリカとサハラを理解する。 ⑤ヨーロッパとロシアを理解する。			○	○	○
		12月		⑥アングロアメリカを理解する。 ⑦ラテンアメリカを理解する。 ⑧オーストラリアと島嶼国を理解する。			○	○	○
	3 学 期	1月		第3編 現代世界における これからの日本の国 土像	①現代日本に求められる国土像		卒 業	○	○
		2月			○	○		○	
		3月			○	○		○	
	学習の方法 予習・復習 ノート等		・教科書、地図帳、地理探究ワークブックは必ず持参すること、 ・授業に全力を尽くしましょう！説明をよく聞き、写真や地図、グラフなどをよく見ましょう。 ・地理探究ワークブックを使って授業を行います、 ・地理探究ワークブックは学期末に回収、点検します、チェックポイントは以下の通りです。 ①内容が不足なくまとめられている。 ②自分以外の人が見ても理解できる。 ・授業があった日のうちに、教科書の該当ページを読み直しましょう。定着力が上がります。						
評 価 方 法		(1) 知識・技能…ノート、地理探究ワークブック、定期考査、小テスト、演習課題、資料読取 (2) 思考・判断・表現…定期考査、小テスト、演習課題 (3) 主体的に学習に取り組む態度…振り返りシート、レポート、発表(プレゼン) 単元ごとに到達度に応じて、(1)～(3)にA～Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備 考 欄		・定期考査と別に、授業内で単元ごとの小テストを行います。							

教 科	地理歴史	科 目 名	地理探究
-----	------	-------	------

知識・技能	到達目標	・地理的事象に関する知識を身に付け、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解している。 ・地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	学習事項の記録	ワークシート	指示された内容に加え補足事項などもまとめることができた。	指示された内容を不足なくまとめることができた。	指示された内容を十分にまとめられなかった。
	知識の習得	定期考査 小テスト	学習事項を十分に理解することができた。	学習事項をおおむね理解することができた。	学習事項の理解が十分でなかった。
	概念的な理解	演習課題	学習事項を応用して十分に解答することができた。	学習事項をもとにおおむね解答することができた。	学習内容をもとにしても十分な解答ができなかった。
	技能の習得	資料読取	各資料が表している事象を十分に読み取ることができた。	各資料が表している事象をおおむね読み取ることができた。	各資料が何を表しているか読み取ることができなかった。
思考・判断・表現	到達目標	・社会における事象を地理的な事象として見いだしたり、地理的な課題として系統地理的、地誌的に考察、構想することができる。 ・地理的事象について考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	多面的・多角的な考え方	定期考査 小テスト	社会における地理的な課題の解決について具体的に考えることができた。	社会における地理的な課題の解決について考えることができた。	社会における地理的な課題について考えることができなかった。
	多面的・多角的な視点の習得	演習課題	身の回りの事象を地理的な事象として見だし、課題をとらえることができた。	身の回りの事象を地理的な事象として見だすことができた。	身の回りの事象を地理的な事象として見だすことができなかった。
	学習事項のまとめ	レポート	地理的事象について考えたことを効果的に説明したり、議論したりできた。	地理的事象について考えたことを説明することができた。	地理的事象について考えることができなかった。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深めようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	学習の調整	振り返りシート	学習の取組状況を十分に振り返り、改善点まで考えることができた。	学習の取組状況を振り返ることができた。	学習の取組状況を十分に振り返ることができなかった。
	粘り強い取組	レポート	社会課題を主体的にとらえ具体的な解決策を考えることができた。	社会課題を主体的にとらえ、解決しようと考えることができた。	社会課題を主体的にとらえることができなかった。
	学習事項の発表	発表 プレゼン	準備した内容を発表し、他の発表へ質問等を行うことができた。	準備した内容を発表することができた。	準備が不十分で発表することができなかった。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科 科目名	地理歴史 日本史探究	履修学年 単 位 数	3 学 年 3 単 位	考 査 範 囲	評価の観点		
学習の目標		わが国の歴史の展開を、諸資料に基づいて地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察理解し、歴史的思考力を同時に培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
教 材		使用教科書「日本史探究」東京書籍 補助教材「要点マスター 日本史探究整理と演習」東京書籍 「新詳日本史」浜島書店							
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	第4編 近現代の地域・日本と世界 第1章 近代社会の幕開け ・開国と明治維新といった、日本社会の大きな変化について学習する。	1 学 期 中 間	1 学 期 中 間	○	○	○	
		5月	第2章 歴史資料と近現代の展望 ・資本主義の発展と、世界の中の近現代日本の状況について学習する。			○	○	○	
		6月	第3章 近現代社会の展望 1節 近代的制度の導入と新しい国際関係 ・殖産興業、文明開化といった、日本社会、生活の近代化について学習する。			○	○	○	
		7月	2節 国民国家と資本主義の成立 ・立憲国家の成立過程と、資本主義社会の定着について学習する。			○	○	○	
	2 学 期	9月	3節 両大戦間期間の日本 ・政党政治とデモクラシーについて学習する。 ・国際社会における日本の立場と国際化について学習する。	2 学 期 中 間	2 学 期 中 間	○	○	○	
		10月	4節 第二次世界大戦と日本 ・昭和恐慌からはじまる、日本の戦時体制について学習する。 5節 占領と改革 ・占領と日本国憲法の成立について学習する。			○	○	○	
		11月	6節 国際社会への復帰と高度経済成長 ・国際社会の復帰と対米協調について学習する。 7節 アジア情勢の変化と経済大国日本 ・高度経済成長と、当時の国際状況について学習する。			○	○	○	
		12月	8節 新しい国際秩序と日本の課題 ・激動する世界と21世紀の日本の状況について学習する。			○	○	○	
		3 学 期	1月	第4章 現代の日本の課題の探究 ・伝統文化の継承と日本の国際協力はどうあるべきかを学習する。	2 学 期 期 末	2 学 期 期 末	○	○	○
			2月	3節 両大戦間期間の日本 ・政党政治とデモクラシーについて学習する。 ・国際社会における日本の立場と国際化について学習する。			○	○	○
			3月	4節 第二次世界大戦と日本 ・昭和恐慌からはじまる、日本の戦時体制について学習する。 5節 占領と改革 ・占領と日本国憲法の成立について学習する。			○	○	○
			4月	6節 国際社会への復帰と高度経済成長 ・国際社会の復帰と対米協調について学習する。 7節 アジア情勢の変化と経済大国日本 ・高度経済成長と、当時の国際状況について学習する。			○	○	○
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)教科書の本文や図表をよく読み内容を理解する。 (2)用語集などを活用し、不明な点はその都度調べる習慣をつける。 (3)常日頃から新聞やテレビなどをみて、授業に関係する事柄に興味を持つ。							
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備 考 欄		※考查前後などで、適宜授業用ノート、演習ノートの提出を求めます。							

教 科	地理歴史	科 目 名	日本史探究
-----	------	-------	-------

知識・技能	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係を理解し、知識を身に付けている。 ・話し合い活動や学習課題などを行い、それらを的確にまとめ、歴史的事象や歴史の流れを探究する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書をしっかりととり、授業用ノートをきれいにまとめることができる。	授業ノート提出 毎時のノート確認	板書をきれいにまとめることができた。	色使いができず、煩雑であり、まとめていない箇所があった。	全く板書をとらなかった（欠席も含む）。
	説明を聞いて、授業の内容を正しく理解することができる。	定期考査 (小テスト)	授業内容を正しく理解できた。	内容の理解に不足していた、内容がよく分からなかった。	全く理解できなかった（欠席も含む）。
思考・判断・表現	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について見通しをもって仮説を設定し、考察、まとめなどを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	グループワークに積極的に参加し、演習ノートを協力してまとめられる。	毎時間のコミュニケーションによるアウトプット、定期考査	積極的にグループワークに参加し、演習ノートを完成できた。	あまりグループワークに参加できず、演習ノートが不完全であった。	全くグループワークに参加できなかった。
	グループワークに積極的に参加し、歴史的因果関係や諸課題などについて話し合える。	毎時間のアウトプットとプレゼンテーション	グループワークに参加し、諸課題について課題解決が十分に図れた。	あまりグループワークに参加できず、課題解決や発表が不完全であった。	
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について主体的にかかわり、それらを探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	今何をすべき時間なのかを考え、主体的に行動することができる。	毎時の授業態度 (定期考査)	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標をしっかりと持って取り組んでいた。	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標を持って取り組んでいた。	授業態度が悪く、集中できていなかった（参加できなかった）。
	提出すべき課題を期限内にきちんと取り組むことができる。	課題、ノートなどの取り組み	提出物が良好で、期限をしっかりと守り自主的に取り組んでいた。	取組みに不足があり、期限に迫られて（遅れて）取り組んでいた。	全く取組まなかった。

鹿児島県立福山高等学校 普通科		教科 科目名	公民 政治・経済	履修学年 単 位 数	3学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
学習の目標		よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、日本および国際社会において国家および社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
教 材		教科書「政治・経済」東京書籍 『政治・経済資料2024』東京法令出版 補助教材『要点マスター政治・経済 整理と演習』東京書籍							
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	第1編 現代日本の政治と経済 第1章 現代日本の政治 1節 民主政治の基本原則について理解する			1 学 期 中 間	○	○	○
		5月	2節 日本国憲法の特徴について理解する 3節 日本の政治機構のしくみについて理解する				○	○	○
		6月	4節 現代政治の特質と課題について考察する				○	○	○
			第2章 現代日本の経済 1節 資本主義経済の成立と発展について理解する			1 学 期 期 末	○	○	○
		7月	2節 現代経済のしくみについて理解する 3節 日本経済の発展について理解し現状を考察する				○	○	○
							○	○	○
	2 学 期	9月	4節 福祉社会と日本経済の課題を考察する 第3章 現代日本の諸課題 少子高齢化、地域活性化、働き方、中小企業の課題等について考察する			2 学 期 中 間	○	○	○
		10月	第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治 1節 国際政治のしくみについて理解する 2節 複雑化する国際政治と日本の政治のあり方を考察する				○	○	○
		11月	第2章 現代の国際経済 1節 国民経済と国際経済について理解する				2 学 期 期 末	○	○
		12月	2節 世界経済の現状を理解し課題を考察する			○		○	○
		3 学 期	1月	第3章 国際社会の諸課題 国際社会の諸課題を理解し、どのように解決するか考察する			卒 業 考 査	○	○
	2月								
	3月								
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)教科書の本文や図表をよく読み内容を理解する。 (2)用語集などを活用し、不明な点はその都度調べる習慣をつける。 (3)常日頃から新聞やテレビなどをみて、授業に關係する事柄に興味を持つ。						
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題、考査等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題、考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題、考査等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備 考 欄		※考査前後などで、適宜授業用ノート、演習ノートの提出を求めます。							

教 科	公 民	科 目 名	政治・経済
-----	-----	-------	-------

知識・技能	到達目標	現実社会の諸課題の解決に向け、自己と社会との関わりを踏まえ、社会に参画する主体として自立することや、他者と協働して、よりよい社会を形成していく力を養う。また、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会を形成する公民としての資質・能力を育成する。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書をしっかりととり、授業用ノートをきれいにまとめることができる。	授業ノート提出 毎時のノート確認	板書をきれいにまとめることができた。	色使いができず、煩雑であり、まとめていない箇所があった。	全く板書をとらなかった（欠席も含む）。
	説明を聞いて、授業の内容を正しくと理解することができる。	定期考査 (小テスト)	授業内容を正しく理解できた。	内容の理解に不足していた、内容がよく分らなかった。	全く理解できなかった（欠席も含む）。
思考・判断・表現	到達目標	・ 公民的事象やそれらの因果関係について見通しをもって仮説を設定し、考察、まとめなどを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	グループワークに積極的に参加し、演習ノートを協力してまとめられる。	毎時間のコミュニケーションによるアウトプット、定期考査	積極的にグループワークに参加し、演習ノートを完成できた。	あまりグループワークに参加できず、演習ノートが不完全であった。	全くグループワークに参加できなかった。
	グループワークに積極的に参加し、歴史的因果関係や諸課題などについて話し合える。	毎時間のアウトプットとプレゼンテーション	グループワークに参加し、諸課題について課題解決が十分に図れた。	あまりグループワークに参加できず、課題解決や発表が不完全であった。	
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・ 公民的事象やそれらの因果関係について主体的にかかわり、それらを探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	今何をすべき時間なのかを考え、主体的に行動することができる。	毎時の授業態度（定期考査）	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標をしっかりと持って取り組んでいた。	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標を持って取り組んでいた。	授業態度が悪く、集中できていなかった（参加できなかった）。
	課題を期限内にきちんと取り組むことができる。	課題、ノートなどの取り組み	取り組みが良好で、期限をしっかりと守り自主的に取り組んでいた。	取り組みに不足があり、期限に迫られて（遅れて）取り組んでいた。	全く取り組んでいなかった。

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科 科目名	数学 数学Ⅱ	履修学年 単 位 数	3学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
							知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。数学的に表現・処理したりする技能を身に付け、事象を論的に考察する力、簡潔・明瞭・論理的に表現する力を養う。数学の良さを認識し考察を深め、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。							
教 材		使用教科書 東京書籍「新数学Ⅱ」							
学習の内容	1 学期	4章 指数関数と対数関数 1節 指数関数				中間 考 査			
		4月 整数の指数 累乗根 分数の指数	・指数の範囲を整数全体に拡張した指数法則について理解し、指数法則を用いて計算することができる。さらに、分数から実数全体に拡張する。				○	○	○
		5月 指数関数とそのグラフ 指数関数の利用	・指数関数の定義とそのグラフの性質を理解し、指数関数のグラフをかくことができる。 ・指数関数の大小比較や指数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。 ・身近な問題を解決することに、指数関数を活用することができる。				○	○	○
		2節 対数関数 対数・対数の性質 対数関数とそのグラフ	・対数の意味を理解し、簡単な対数の値を求めることができる。また、対数の性質を理解し、それを用いて対数の計算をすることができる。 ・対数関数の定義とそのグラフの性質を理解し、対数関数のグラフをかいたり、大小比較をしたりすることができる。			○	○	○	
		6月 常用対数	・常用対数の意味と常用対数表の使い方を理解し、それらを用いて整数の累乗の桁数を求めることができる。			○			
		2 学期	5章 微分と積分 1節 微分係数と導関数				中間 考 査		
	7月 平均変化率・微分係数 導関数・導関数の計算		・微分係数を定義により求める、 ・導関数を利用して微分係数を求める。			○		○	○
	9月 接線		・曲線状の点における接線の方程式を求める。			○			
	2節 導関数の応用					期末 考 査			
	10月 関数の増加・減少 関数の極大・極小		・導関数の符号を利用して、関数の増減を調べる。 ・極大、極小の意味を理解し、極大値と極小値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。				○	○	○
	11月 関数の最大・最小		・ある定義域における関数の最大値・最小値を、増減を調べることによって求めることができる。また、それを利用して身近な問題を解決できる。				○	○	○
	3 学期		3節 積分 12月 不定積分				卒業 考 査	○	
		1月 定積分 面積 課題学習	・定積分を利用して、直線や曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。			○		○	○
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)板書事項をノートにとり、自分な (2)授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモしたり、質問したりしましょう。 (3)授業の内容を理解し、身の回りのことと関連づけて探究しましょう。 (4)提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5)授業を振り返り、次回へいかしましょう。							
評価方法		(1)知識・技能(授業態度、学習課題への取組、考査等) (2)思考・判断・表現(授業態度、学習課題への取組、考査等) (3)主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題への取組、考査等) 単位ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備考欄									

教 科	数学	科 目 名	数学Ⅱ
-----	----	-------	-----

知識・技能	到達目標	・事象を数学化したり，数学的に解決することができる。 ・事象を数学的な自分の考え方によって表現したり，処理する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し，自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	課題の提出	週末課題 長期休業課題	課題の内容を正しく理解し，提出できた	課題の提出ができた	課題の提出ができなかった
思考・判断・表現	到達目標	数学的な事象について，どのような考え方が必要か自分の中で思考して，用いる定理や公式を判断し，実際に解決できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し，それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・数学の良さを認識し，数学を活用使用としている。 ・自分の考えが出るまで粘り強く考え根拠を示して判断しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと，その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ，自分なりに分かりやすく表現をしている	授業で扱った内容を分かりやすく表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	振り返り ノート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科 科目名	数学 数学B		履修学年 単位数	3学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
								知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈、表現・処理したりする技能を身に付ける。日常の事象や社会の現象を数学化し、問題を解決したり解決の過程や結果を振り返り考察する力を養う。数学の良さを認識し、数学を活用しようとする態度、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。								
教 材		使用教科書 東書 数学B Essence								
学習の内容	1 学 期	4月	1章 数列 ・数列と一般項 ・等差数列,等比数列	数列の表し方や一般項の意味を理解し、数列の各項や数列の一般項を求めることができる。 等差数列・等比数列について理解し、その一般項や和を求めることができる。また、いろいろな自然数の和の考察に等差数列の和の公式を活用することができる。		1 学 期 中 間	○	○	○	
		5月	・いろいろな数列	記号Σを用いた和の表し方やΣnの性質を理解し、自然数の和の公式や自然数の2乗の和の公式を利用して、いろいろな数列の和を求めることができる。		1 学 期 末	○	○	○	
		6月	・階差数列	階差数列から本の数列の一般項を求めることや、分数で表された数列の和を求めることができる。			○	○	○	
		7月	・少し複雑な数列	数列の和から一般項を求めることや、分数で表された数列の和を求めることができる。			○	○	○	
	2 学 期	9月	・漸化式、数学的帰納法 2章 統計的な推測 ・標本調査	漸化式、数学的帰納法について理解し、事象を表すことや用いることができる。 標本調査の考え方について理解を深める。		2 学 期 中 間	○	○	○	
		10月	・確率変数と確率分布 ・確率変数の平均、分散、標準偏差	確率変動と確率分布について理解し確率分布を求めることができる。 確率変数の平均を理解し、確率分布からその確率偏すの平均を求めることができる。分散及び標準偏差を理解し、確率分布からそれらを求めることができる。			○	○	○	
		11月	・二項分布 ・連続した値をとる確率偏す連の分布	二項分布を理解し、二項分布に従う確率変数の平均、分散、標準偏差を求めることができる。 確率密度関数から確率を求めることができる。		2 学 期 末	○	○	○	
		12月	・正規分布 (二項分布の正規分布による近似) ・標本平均の分布 ・母平均の区間推定	正規分布や標準正規分布を理解し正規分布表を用いて確率を求めることができる。正規分布で近似することで二項分布の確率を求めることができる。 標本平均の分布と母集団の分布の関係について理解している。 母平均の区間推定の方法を理解し、母平均に対する信頼区間を求めることができる。			○	○	○	
		3 学 期	1月	・統計的仮説検定	正規分布を用いた仮説検定をの方法を理解し、主張の妥当性について、仮説検定の考え方に基づいて批判的に考察することができる。		学 年 末	○	○	○
			2月	3章 数学と社会生活 ・およその数量を推定する ・変動の激しいデータを扱う	実際に調査することが難しい数量をフェルミ推定を使って推定することができる。 変動の激しいデータの長期的な傾向を移動平均のグラフから読み取ることができる。			○	○	○
	3月		・散布図に表したデータを関数として見る ・最終的な状態を予測する ・区域の境界線を定める	分布を散布図で表し、近似曲線をかいてその傾向を調べることができる。 互いに影響し合う2つの量が時間と共に変化する様子について結果を予測することができる。 ポロノイ図を理解し、用いて平面上に区域の境界線を定めることができる。		○		○	○	
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)板書事項をノートにとり、自分なりの補足等してまとめましょう。 (2)授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモしたり、質問したりしましょう。 (3)授業の内容を理解し、身の回りのことと関連づけて探究しましょう。 (4)提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5)授業を振り返り、次回へいかしましょう。							
	評価方法		(1)知識・技能(授業態度、学習課題への取組、考查等) (2)思考・判断・表現(授業態度、学習課題への取組、考查等) (3)主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題への取組、考查等) 単位ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備考欄										

教 科	数学	科 目 名	数学B
-----	----	-------	-----

知識・技能	到達目標	・事象を数学化したり, 数学的に解決することができる。 ・事象を数学的な自分の考え方によって表現したり, 処理する技能を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し, 自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	課題の提出	週末課題 長期休業課題	課題の内容を正しく理解し, 提出できた	課題の提出ができた	課題の提出ができなかった
思考・判断・表現	到達目標	数学的な事象について, どのような考え方が必要か自分の中で思考して, 用いる定理や公式を判断し, 実際に解決できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し, それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・数学のよさを認識し, 数学を活用しようとしている。 ・自分の答えが出るまで粘り強く考え根拠を示して判断しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと, その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ, 自分なりに分かりやすく表現をしている	授業で扱った内容を分かりやすく表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	振り返り ノート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	数学		履修学年	3学年	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	数学C		単 位 数	2単位		知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。数学的に表現・処理したりする技能を身に付け、事象を論的に考察する力、簡潔・明瞭・論理的に表現する力を養う。数学の良さを認識し考察を深め、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。								
教 材		使 用 教 科 書 実教出版「新編数学C」								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	1章 ベクトル 平面上のベクトル ・ベクトルとその意味	・平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示及び内積その基本的な性質について理解できるようにする。 ・ベクトルの演算法則を考察できるようにする。		1 学 期 中 間	○	○		
		5月	・ベクトルの演算、成分				○	○		
		6月	・ベクトルの内積			1 学 期 期 末	○	○	○	
		7月	ベクトルの応用 ・位置ベクトル	・ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形の性質を見いだしたり、多目的に考察したり出来るようにする。			○		○	
		9～10月	・ベクトル方程式			○		○		
	2 学 期	11月	空間ベクトル ・空間の座標、ベクトル ・内積、位置ベクトルと空間の図形	・座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張出来ることを理解できるようにする。 ・ベクトルやその内積などの基本的な性質を用いて、空間図形の性質を見いだしたり、多目的に考察したり出来るようにする。		2 学 期 期 末	○	○		
		12月	2章 複素数平面 ・複素数平面、極形式	・複素数平面を用いて複素数を図表示し、複素数の実数倍、和、差、積及び商の幾何学的な意味を理解できるようにする。			○	○	○	
	3 学 期	1月	・ド・モアブルの定理 ・複素数と図形 3章 平面上の曲線 ・二次曲線 ・媒介変数表示と極座標	・放物線、楕円、双曲線が二次式で表されること及びそれらの二次曲線の基本的な性質について理解するとともに、放物線、楕円、双曲線を相互に関連づけて捉え、考察できるようにする。		卒 業	○	○		
							○		○	
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりの補足等してまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りのことと関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。							
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題への取組、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題への取組、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題への取組、考查等) 単位ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄										

教 科	数学	科 目 名	数学C
-----	----	-------	-----

知識・技能	到達目標	・事象を数学化したり、数学的に解決することができる。 ・事象を数学的な自分の考え方によって表現したり、処理する技能を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	課題の提出	週末課題 長期休業課題	課題の内容を正しく理解し、提出できた	課題の提出ができた	課題の提出ができなかった
思考・判断・表現	到達目標	数学的な事象について、どのような考え方が必要か自分の中で思考して、用いる定理や公式を判断し、実際に解決できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・数学の良さを認識し、数学を活用しようとしている。 ・自分の考えが出るまで粘り強く考え、根拠を示して判断しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ、自分なりに分かりやすく表現をしている	授業で扱った内容を分かりやすく表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	振り返りノート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科 科目名	理科 「化学」	履修学年 単 位 数	3 学 年 4 単 位	考 査 範 囲	評価の観点		
学習の目標		気体、液体、固体の性質を探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡および溶液の性質、化学変化に伴うエネルギーの出入り、反応速度および化学平衡を探究し、化学反応に関する概念や法則を理解するとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる。無機物質や有機化合物、高分子化合物の性質や反応を探究し、合成高分子化合物と天然高分子化合物の特徴を理解するとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる。					知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
教 材		使用教科書 数研出版 新編化学 副 教 材 浜島書店 新インプレス化学ノート				1 学 期 期 末 2 学 期 中 間 2 学 期 末 卒 業 考 査	○ ○		

教 科	理 科	科 目 名	化学
-----	-----	-------	----

知識・技能	到達目標	・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を化学的に探究する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実験の手順	レポート	手順をフローチャートや絵などでまとめることができた	手順をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実験結果の記録	レポート	実験結果を記録し、考察したことを整理できる	実験結果を記録できた	全く記録しなかった
思考・判断・表現	到達目標	・自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 発表 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
	課題や仮説の設定	レポート 発表	課題や仮説を設定し、発表できる	課題や仮説を設定できる	課題や仮説を設定できない
	実験結果の考察	レポート 発表	実験結果の考察を行い、さらに法則へと導くことができる	実験結果を考察できた	全く考察できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを化学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ、自分なりに分かりやすく図などで表現をしている	授業で扱った内容を分かりやすく図で表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	レポート 振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である
	グループ学習	ノート レポート 発表	積極的に活動した	意見を聞くことができた	活動に参加しなかった

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	理科		履修学年	3 学 年 4 単 位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	「生物」		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		生物や生物現象についての観察、実験や課題研究などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、生物学的に探究する能力や態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。								
教 材		使 用 教 科 書 : 啓林館 生物 副 教 材 : 啓林館 生物の基本マスター								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	生物の進化 最初の生物と初期の生物進化について学習する。			1 学 期 期 末	○		○	
		5月	遺伝子の変化と進化のしくみ				○	○	○	
			遺伝子の組み合わせの変化について学習する。				○		○	
			進化のしくみについて学習する。				○		○	
		6月	生物の系統と進化				○	○	○	
	2 学 期		生物の系と進化について学習する。			2 学 期 中 間	○		○	
			人類の系統と進化について学習する。				○		○	
		7月	細胞と分子 細胞を構成する物質、生体膜の働きと細胞				○		○	
		3 学 期	9月	生命現象とタンパク質			2 学 期 期 末	○		○
				タンパク質の構造と機能について学習する。				○		○
	酵素として働くタンパク質について学習する。			○	○	○				
	物質の輸送や情報伝達に働くタンパク質について学習する。			○		○				
3 学 期	10月	代謝 代謝			2 学 期 期 末	○		○		
		呼吸と発酵のしくみについて学習する。				○	○	○		
	11月	遺伝情報の発現と発生				○	○	○		
3 学 期		遺伝情報とその発現について学習する。			卒 業 考 査	○		○		
	12月	発生と遺伝子の発現について学習する。				○	○	○		
		生物の環境応答				○		○		
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りの自然現象と関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 実験や発表などの活動には積極的に参加しましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄										

教 科	理 科	科 目 名	生 物	
-----	-----	-------	-----	--

知識・技能	到達目標	・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実験の手順	レポート	手順をフローチャートや絵などでまとめることができた	手順をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実験結果の記録	レポート	実験結果を記録し、考察したことを整理できる	実験結果を記録できた	全く記録しなかった
思考・判断・表現	到達目標	・自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 発表 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
	課題や仮説の設定	レポート 発表	課題や仮説を設定し、発表できる	課題や仮説を設定できる	課題や仮説を設定できない
	実験結果の考察	レポート 発表	実験結果の考察を行い、さらに法則へと導くことができる	実験結果を考察できた	全く考察できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ、自分なりに分かりやすく図などで表現している	授業で扱った内容を分かりやすく図で表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	レポート 振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である
	グループ学習	ノート レポート 発表	積極的に活動した	意見を聞くことができた	活動に参加しなかった

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	保健体育		履修学年	3 学年 3 単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	体育		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。								
教 材		使 用 教 科 書 〈大修館書店〉現代高等保健体育 副 教 材 〈大修館書店〉 現代高等保健体育ノート・ステップアップ高校スポーツ								
学 習 の 内 容	1 学 期	4 月	オリエンテーション ・授業の心得、体育館施設利用の説明				実 施 し ま せ ん			
			集団行動 ・集団行動の基本的動作確認						○	
			第2ラジオ体操 ・第2ラジオ体操の動きの確認					○		○
		5 月	体づくり運動 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わう運動の学習					○	○	○
	2 学 期	6 月	・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、健康の保持増進や体力の向上を目指す学習							
			球技Ⅰ・武道 選択 ・ネット型、ベースボール型選択の場合、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する学習					○	○	○
		7 月	・柔道の場合、勝敗を競ったり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する学習							
			体育理論 ・豊かなスポーツライフの設計 (①～③)					○	○	○
	3 学 期	9 月	球技Ⅱ・武道 選択 ・ゴール型選択を行い、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する学習					○	○	○
		10 月	・柔道の場合、勝敗を競ったり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開する学習							
		11 月	陸上競技 ・長距離走の競技を行い、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、長距離走の技能を身につける					○	○	○
		12 月	体育理論 ・豊かなスポーツライフの設計 (④～⑥)					○	○	○
学習の方法		・実技を伴う教科なので、体操服等に更衣して運動することが授業の原則です。								
予習・復習 ノート等		・体育理論は、講義形式です。教科書・ノート・プリント等を活用します。 ・ケガ等の特別な事情で運動ができない場合には事前に連絡をします。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(スキルテスト、学習課題、小テスト、ノート、プリント) (2) 思考・判断・表現(学習課題、レポート、ノート、プリント) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、課題提出、ノート、プリント) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行う A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		運動制限等がある場合には、教科担任に相談して学習に取り組むこと。								

教 科	保健体育	科 目 名	体 育
-----	------	-------	-----

知識・技能	到達目標	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	運動の多様性や体力の必要性について理解する	レポート 小テスト	体の動かし方や用具の操作方法、運動の実践や生涯スポーツにつながる概念や法則などを理解している。	体の動かし方や用具の操作方法、運動の法則などを理解している。	体の動かし方や用具の操作方法、運動の法則などを理解していない。
	各種運動の技能を身に付ける	スキルテスト	各領域の特性や魅力に応じた、各領域における技能や攻防の様相、動きの様相を実践できている。	各領域の特性や魅力に応じた動きの様相を実践できている。	各領域の特性や魅力に応じた動きの様相を実践できていない。
思考・判断・表現	到達目標	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	運動を継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考する	レポート 学習カード	各領域における学習課題に応じて、これまでに学習した内容を学習場面に適用し、自己や仲間の課題に応じた解決ができる。	各領域における学習課題に応じて、自己や仲間の課題に応じた解決ができる。	各領域における学習課題に応じて、自己や仲間の課題に応じた解決できていない。
	課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う	発表 話し合い活動	根拠を示したり他者に配慮したりしながら、言葉や動作などで即座に表したり、図や文章及び映像等を用いて筋道を立てて伝えることができる。	他者に配慮したり、言葉や動作などで表したり、図や文章及び映像等を用いて伝えることができる。	他者に配慮したり、言葉や動作などで表したり、図や文章及び映像等を用いて伝えることができていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	公正、協力、責任、参画、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てる	観 察 レポート	運動を継続することの意義などを理解し、取り組むべき課題の解決の過程を示し、主体的に仲間との学習を進めることができる。	取り組むべき課題の解決の過程を示し、仲間との学習を進めることができる。	取り組むべき課題の解決の過程を示し、仲間との学習を進めることができていない。
	健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う	観 察 ノート	段階的に運動をしたり、用具や場所の安全を確認し、環境の変化などを予見して危険を回避することができる。	用具や場所の安全を確認し、危険を回避することができる。	用具や場所の安全を確認し、危険を回避することができていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	外国語(英語)	履修学年	3学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点				
		科目名	英語コミュニケーションⅡ	単 位 数			知 識	思 考 判 断 技 能	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度		
学習の目標		・日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用する語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、 1. 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。 2. 必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、 3. 必要な情報を読み取り、聞き手の意図を把握することができる。 4. 必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、 5. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。 6. 聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができる。 ・日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、 7. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 8. 聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 9. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。 10. 聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。				団					
教 材		使用教科書<開隆堂>Amity English Communication Ⅱ 副教材<開隆堂> Amity English Communication Ⅱ ワークブック 副教材<旺文社> 英単語ターゲット1200【改訂版】									
学 習 の 内 容	1 学 期	4月～5月	Lesson 7 Artificial Intelligence 【AIロボットの未来】 ・どんなAIロボットを欲しいかについて紹介する。・AIロボットと人間の関係について話し合う。 ・接続詞、前置詞について学習する。			一学期中間考査	○	○			
		5月～6月	Lesson8 Mystery of Colors 【色の不思議】 ・写真を見て、自分の考えを説明する。・色の持つ力について話し合う。 ・現在完了・現在完了進行形について学習する。			一学期期末考査	○	○			
		6月～7月	Lesson 9 Street Performers 【ストリートパフォーマー】 ・自分の好きなミュージシャンや曲について紹介する。・夢をかなえるために必要なことについて話し合う。 ・分詞の形容詞的用法・分詞構文について学習する。			二学期中間考査	○	○			
	2 学 期	9月～10月	Lesson10 The culture of Selfies 【自撮り文化】 ・自分の似顔絵を描いて自己紹介をする。・自分を表現する方法について話し合う。 ・関係代名詞について学習する。			二学期期末考査	○	○			
		10月～11月	Lesson11 Finland【フィンランド】 ・フィンランドの様々なものについて、魅力を紹介する。・フィンランドでやってみたいことについて話し合う。 ・関係副詞について学習する。				○	○			
	3 学 期	12月	Lesson12 In Order to Live a Happy Life【幸せな人生にするために】 ・別の人・生き物になったつもりで、気持ちを表現する。自分にとっての幸せについて、話し合う。 ・仮定法について学習する。				○	○			
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 授業の進め方は、教科書を用いながら基礎的・基本的事項の理解及び定着に重点を置く。 (2) 必要な教材(教科書・ノート・ファイル・PC/タブレット・単語帳)を準備して授業に臨む。 (3) 授業中は言語活動等に積極的に参加する。 (4) 授業中は、先生の指示に従い、説明等をノートやプリントに記入する。 (5) 週末課題への取り組みを徹底する。また、復習プリント等を活用し基礎的な力を身につける。									
評 価 方 法		(1) 知識・技能(定期考査・小テスト・ワークブック・パフォーマンステスト等) (2) 思考・判断・表現(定期考査・ノート・ワークブック・英作文/レポート・発表/プレゼンテーション・パフォーマンステスト等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(ノート・振り返りシート・課題/提出物・発表・授業態度・パフォーマンステスト等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)に:A, B, Cの評価を行う。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)									
備 考 欄											

教 科	外国語(英語)	科 目 名	英語コミュニケーションⅡ	
-----	---------	-------	--------------	--

知識・技能	到達目標	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を概ね理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	概ね理解している。	理解していない。
	授業	ワークブック	きちんとワークブックに記入、解答できており、間違いの修正や書き直しもなされている。	一部空欄はあるが、ワークブックに記入、解答できている。	大部分が空欄か、提出ができていない。
	授業	パフォーマンステスト	簡単に正しい英語にまとめ、相手に伝えることができる。	概ね相手に伝えることができる。	Bを満たしていない。
思考・判断・表現	到達目標	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えを記せ、英語を正確に用いて表現できている。	自分の考えを記したり、英語を概ね正確に用いて表現できている。	自分の考えを記したり、表現ができていない。
	授業	ノート	工夫しながら授業内容を記し、間違いの修正や書き直しもされている。	授業内容を記している。	空欄が多く、授業内容を記せていない。
	授業	ワークブック	自分の考えを深く記せ、内容に工夫をして表現している。	自分の考えを記したり表現ができている。	自分の考えを記したり表現ができていない。
	授業	英作文レポート	自分の考えを深く記せ、表現豊かに記している。	自分の考えを記したり、表現ができている。	自分の考えを記したり、表現ができていない。
	授業	発表 プレゼンテーション	ある程度の長さで、自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを概ね発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い表現・発表をしている。
	授業	パフォーマンステスト	相手に伝わるような表現に言い換えたり、理解してもらえるようにしたりして、工夫して話している。	聞き手を意識しながら、概ね伝えられている。	Bを満たしていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、自主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとしている。 ・粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりに工夫を加えながら分かりやすく整理し、まとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写していない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りができていない。
	提出物	課題提出物	完全に提出ができ、内容もきちんと記している。	提出ができ、内容も概ね記されている。	提出ができない。内容が記されていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、答えを導こうと努力している。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。
	授業	授業態度	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が常に見られる。	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が見られる。	根気強く真摯に授業へ取り組む姿勢や意欲が欠けている。
	授業	パフォーマンステスト	聞き手を意識しながら、相手に分かるようにジェスチャーなども加えて詳しく話そうとしている。	相手に伝わるように話そうとしている。	Bを満たしていない。

鹿児島県立 福山高等学校 普通科		教科		外国語(英語)		履修学年		3学年 3単位		考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名		論理・表現Ⅱ		単 位 数					知 識	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		・話すこと[やり取り]・・・日常的な話題について多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを話して伝えあったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。 ・話すこと[発表]・・・日常的な話題について多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。 ・書くこと・・・日常的な話題について多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。											
教材		使用教科書<開隆堂>Amity English Logic and Expression Ⅱ 副教材<開隆堂>Amity English Logic and Expression Ⅱワークブック 副教材<旺文社>英単語ターゲット1200【改訂版】											
学習の内容	1 学 期	4月	Lesson1	現在形を学習し、現在の部活動や興味・関心があることを表現する。		1 学 期 中 間 考 査	○	○	○				
			Lesson2	過去形を学習し、中学校時代の部活動について、積極的に発表する。			○	○	○				
		5月	Action Part 1	昨年頑張ったことや今年の目標を英語で伝えるようにする。		1 学 期 期 末 考 査		○	○				
			Lesson3	進行形を学習し、今、興味があることについて表現する。			○	○	○				
		6月	Lesson4	未来を表す表現を学習し、修学旅行の予定について発表する。		2 学 期 中 間 考 査	○	○	○				
			Lesson5	助動詞(can / may)の用法を学習し、級友にアドバイスができるようにする。			○	○	○				
		Lesson6	助動詞(must / should)の用法を学習し、SNSの利用の仕方のルールについて対話する。		○		○	○					
		Action Part 2	留学生に向けて、自分のことを英語で伝えるようにする。				○	○					
	7月	Lesson7	完了形(完了・結果、経験)の用法を学習し、聞いたことがある話やうわさについて対話する。		2 学 期 期 末 考 査	○	○	○					
		Lesson8	完了形(継続)の用法を学習し、自分が続けている習慣について対話する。			○	○	○					
	2 学 期		9月	Lesson9	受動態の用法を学習し、自分が住んでいる市町村にある建築物について発表する。		2 学 期 中 間 考 査	○	○	○			
				Lesson10	比較形・最上級を学習し、自分が住んでいる都道府県とほかの都道府県を比べて紹介する。			○	○	○			
			10月	Lesson11	同等比較・倍数比較を学習し、投票率を示した統計表をもとに、自分の意見を発表する。			2 学 期 期 末 考 査	○	○	○		
				Lesson12	動名詞の用法を学習し、趣味や好きなことについて対話する。				○	○	○		
			Lesson13	to不定詞の用法(名詞的用法)を学習し、おすすめの歌や映画などの紹介文を書く。		卒 業 考 査	○		○	○			
				Action Part 3	睡眠時間・歩数・インターネット利用時間の3つの生活習慣について、英語で自分のことを発表する。				○	○			
			Lesson14	to不定詞の用法(副詞的用法・形容詞的用法)を学習し、最近時間がなくてできなかったことを発表する。			卒 業 考 査	○	○	○			
				11月	Lesson15			分詞(現在分詞・過去分詞)の用法を学習し、好きな本や映画などについて紹介する。		○	○	○	
			Lesson16	関係代名詞(who・whose・which・that)の用法を学習し、動物などの特徴をもとにクイズを出す。		○		○	○				
			Lesson17	関係代名詞(what・非制限用法)の用法を学習し、最近感動したことについて対話する。		○		○	○				
			Action Part 4	自分たちがしたいと思うボランティアについて、英語でポスターを作り、発表する。			○	○					
				12月	Lesson18	関係副詞(when・where・why・how)の用法を学習し、自分の習慣について、いつどのようにするかを対話する。		卒 業 考 査	○	○	○		
	Lesson19	仮定法(仮定法過去・仮定法過去完了)の用法を学習し、もし校長先生になったらしたいことについて、対話する。			○	○	○						
	Lesson20	接続詞の用法を学習し、環境のためにすべきだと思うことについて自分の考えを発表する。			○	○	○						
	3 学 期	1月	Action Part 5	世界の食文化を紹介しようを通して、食文化・食習慣を伝え合う。		卒 業 考 査	○	○	○				
		文法のまとめ	①～⑥		○								
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)授業の進め方は、教科書を用いながら基礎的・基本的事項の理解及び定着に重点を置く。 (2)必要な教材(教科書・ノート・ファイル・PC/タブレット・単語帳)を準備して授業に臨む。 (3)授業中は言語活動等に積極的に参加する。 (4)授業中は、先生の指示に従い、説明等をノートやプリントに記入する。 (5)週末課題への取り組みを徹底する。また、復習プリント等を活用し基礎的な力を身につける。											
評価方法		(1)知識・技能(定期考査・小テスト・ワークブック・パフォーマンステスト等) (2)思考・判断・表現(定期考査・ノート・ワークブック・英作文/レポート・発表/プレゼンテーション・パフォーマンステスト等) (3)主体的に学習に取り組む態度(ノート・振り返りシート・課題/提出物・発表・授業態度・パフォーマンステスト等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行う。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)											
備考欄													

教 科	外国語(英語)	科 目 名	論理・表現Ⅱ
-----	---------	-------	--------

知識・技能	到達目標	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を話すこと(やりとり)、話すこと(発表)、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を概ね理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	概ね理解している。	理解していない。
	授業	ワークブック	きちんとワークブックに記入、解答できている。間違いの修正や書き直しもなされている。	一部空欄はあるが、ワークブックに記入、解答できている。	大部分が空欄か、提出ができていない。
	授業	パフォーマンステスト	簡単に正しい英語にまとめ、相手に伝えることができる。	概ね相手に伝えることができる。	Bを満たしていない。
思考・判断・表現	到達目標	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えを記せ、英語を正確に用いて表現できている。	自分の考えを記したり、英語を概ね正確に用いて表現できている。	自分の考えを記したり、表現ができていない。
	授業	ノート	工夫しながら授業内容を記し、間違いの修正や書き直しもなされている。	授業内容を記している。	空欄が多く、授業内容を記せていない。
	授業	ワークブック	自分の考えを深く記せ、内容に工夫をして表現している。	自分の考えを記したり表現ができていない。	自分の考えを記したり表現ができていない。
	授業	英作文レポート	自分の考えを深く記せ、表現豊かに記している。	自分の考えを記したり、表現ができていない。	自分の考えを記したり、表現ができていない。
	授業	発表プレゼンテーション	ある程度の長さで、自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを概ね発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い表現・発表をしている。
授業	パフォーマンステスト	相手に伝わるような表現に言い換えたり、理解してもらえるようにしたりして、工夫して話している。	聞き手を意識しながら、概ね伝えられている。	Bを満たしていない。	
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、自主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。 ・学んだ内容を活用して、積極的に発表しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりに工夫を加えながら分かりやすく整理し、まとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写していない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りができている。	単元の学習内容を振り返りができていない。
	提出物	課題提出物	期限内に完全に提出ができ、内容もきちんと記している。	提出ができ、内容も概ね記されている。	提出ができない。内容が記されていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、答えを導こうと努力している。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。
	授業	授業態度	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が常に見られる。	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が見られる。	根気強く真摯に授業へ取り組む姿勢や意欲を欠いている。
授業	パフォーマンステスト	聞き手を意識しながら、相手に分かるようにジェスチャーなども加えて詳しく話そうとしている。	相手に伝わるように話そうとしている。	Bを満たしていない。	

鹿児島県立 福山高等学校 普通科・商業科		教科 科目名	家庭 家庭総合	履修学年 単 位 数	3学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点			
							知 識	思 考・ 判 断	主 体的 に学 習に 取り組 む態 度	
学 習 の 目 標		人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。					一 学 期 期 末	○	○	○
教 材		使 用 教 科 書： 大修館書店〔家総705〕 「Creative Living『家庭総合』で生活をつくらう」						二 学 期 期 末	○	○
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	第4章 子どもの生	・子供との適切な関わり方を工夫し、子供の発達に応じて適切に関わるための技能を身に付ける。			○		○	○
		5月	ト	・子どもを取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉について理解を深める。 ・子供との適切な関わり方を工夫し、子供の発達に応じて適切に関わるための技能を身に付ける。						
		6月	第10章 衣生活のマネジメント	・衣生活を取り巻く課題、日本と世界の衣文化など、被服と人との関わりについて理解を深める。 ・ライフステージの特徴や課題に着目し、身体特性と被服の機能及び着装について理解する。 ・健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理ができる。 ・被服材料、被服構成、被服製作、被服衛生及び被服管理について科学的に理解し、衣生活の自立に必要な技能を身に付ける。 ・よりよい住生活の創造について考え、工夫する。						
	2 学 期	7月					○	○	○	
		9月								
		10月	第3章 家族・家庭生活のマネジメント	・家族・家庭と社会との関わりについて理解を深める。						
		11月	第5章 高齢期の生活のマネジメント	・高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深め、高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能を身に付ける。 ・高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解を深める。 ・家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察し、適切な支援の在り方や関わり方を工夫する。						
			第6章 共生社会をつくる	・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。 ・家庭と地域との関わりについて理解する。 ・様々な人々が共に支え合って生きることの意義について理解を深める。 ・共に支え合って生活することの重要性について考察し、様々な人々との関わり方を工夫する。						
		12月	第11章 住生活のマネジメント	・住生活を取り巻く課題、住文化など、住まいと人との関わりについて理解を深める。 ・各ライフステージの特徴や課題に着目し、住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、生涯を見通した住生活の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 ・家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画について理解し、快適で安全な住空間を計画するために必要な情報を収集・整理できる。 ・よりよい住生活の創造について考え、工夫する。						
	3 学 期	1月					○	○	○	
		第7章 持続可能な社会をつくる	・生活と環境との関わりや持続可能な消費、持続可能な社会への参画意義について理解を深め、主体的に行動できるよう、ライフスタイルを工夫する。							
学 習 の 方 法		(1)説明事項や板書は、必ずワークシートに丁寧に記入しまとめましょう。適宜、提出を求めます。								
予 習・復 習 ノ ー ト 等		(2)発表や実習などの活動には、積極的に参加しましょう。								
		(3)発問に対し意欲的に考え、聞き手に分かりやすく伝わるように努めましょう。								
		(4)小単元毎に授業の振り返りを行い、次の授業へ生かします。								
		(5)提出物は、必ず期限内に提出しましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能(定期考査、小テスト、実習・実験等)								
		(2) 思考・判断・表現(定期考査、ワークシート、レポート作成、発表、実習・実験、作品製作等)								
		(3) 主体的に学習に取り組む態度(授業や課題に取り組む態度、振り返りシートの記述、教師による行動観察、授業中の発言、自己評価や相対評価等の状況等)								
		単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。								
		A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		・地域の認定こども園へ3学期に半日を使い訪問予定です。								

教 科	家 庭	科 目 名	家庭総合	
-----	-----	-------	------	--

知識・技能	到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活，衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	事実的な知識の習得	・小テスト ・定期考査	授業の内容を正しく理解している	授業の内容をおおむね理解している	あまり理解していない
	知識の概念的な理解	・定期考査 ・ワークシート記述	学んだ知識や技能を用い自分の言葉で記述している	学んだ知識や技能を用い記述している	学んだ知識や技能を用い記述できない
思考・判断・表現	到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などについて課題を見だし，その解決を目指して思考を深め，適切に判断し，表現を工夫するなど，生活を創造する能力を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	課題を設定する	・定期考査 ・ワークシート記述 ・グループでの話し合い ・作品の制作や表現 ・自己評価や相互評価	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定している	生活の中から問題を見いだして課題を設定している	生活の中から問題を見いだして課題を設定できていない
	解決方法を検討し，計画，立案する		生活課題について多角的に捉え，実践に向けた計画を考え工夫している	実践に向けた計画を考え工夫している	実践に向けた計画を考え工夫できていない
	実践した結果を評価・改善する		問題点や改善策を具体的に記述し，評価・改善している	問題点や改善策を記述し，評価・改善している	問題点や改善策を記述し，評価・改善していない
	論理的に表現する		考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している	考察し表現している	考察し表現できていない
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などについて関心を持ち，その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに，実践的な態度を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	粘り強い取組を行おうとする	・ワークシートの記述 ・自己評価，相互評価 ・振り返りシート	課題の解決に向けて見通しを持ち，粘り強く取り組んでいる	課題の解決に向けて見通しを持ち，粘り強く取り組もうとしている	課題の解決に向けて見通しを持ち，粘り強く取り組むことができていない
	自らの学習を調整しようとする		学習内容について具体的に記述があり，次の学びにつながる振り返りができている	感想部分にある程度の記述があり，振り返りができている	見通しが持てず，感想もあまり記述できなかった
	実践しようとする態度	・授業中の発言	発問に対して意欲的に考え，聞き手を納得させる根拠を持った発言をしている	発問に対して意欲的に考え，発言をしている	発問に対して考え，自分の意見を持とうとしない
		・教師による行動観察	学習に主体的に参加し，理解につなげている	学習に参加し，理解につなげようとしている	学習への取り組みが物足りず，理解しようという姿勢が乏しい

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 普 通 科		教科	理数		履修学年	3 学 年 2 単 位	考 査 範 囲	評価の観点			
		科目名	「理数探究」		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
学習の目標		理数探究基礎で学んだ知識や技能を活かし、課題設定を行い、設定した課題に対して科学的・数学的手法を用いて、解決する力を養う。また、解決した手法、結果等を他者へ発信する力を養う。問題発見、問題解決の過程を通して主体的に学び、論理的、創造的、自発的な学習態度を育てる。									
教 材		使 用 教 科 書 特になし 副 教 材 特になし									
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	ガイダンス	1年間の計画、課題設定等を行う 予備調査・予備実験を行う				考 査 は 行 い ま せ ん	☐	☐	☐
		5月	計画	課題の仮説や計画を立てる					☐	☐	☐
		6月	研究	自らの課題の探究活動を行う					☐	☐	☐
		7月	研究	反省と計画の修正を行う					☐	☐	☐
	2 学 期	9月	研究						☐	☐	☐
		10月	発表準備	文化祭で発表を行う					☐	☐	☐
		11月	研究	追加の研究をする					☐	☐	☐
		12月	最終発表会	最終発表会を行う					☐	☐	☐
	3 学 期	1月	論文作成	論文を作成する 論文提出					☐	☐	☐
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 普段から疑問に思うことをメモしておきましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りの自然現象と関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 実験や発表などの活動には積極的に参加しましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。									
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題・実験観察への取組等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実験観察への取組等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実験観察への取組等) 到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)									
備 考 欄											

教 科	理数	科 目 名	理数探究
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	多角的、複合的に事象を捉え、数学や理科などに関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高める。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	(課題設定) 文献やデータベースの調査	実験ノート レポート	実験データや参考文献を分析しやすいよう工夫して処理できる	実験データ等を正しく記録することができる	実験データ等を正しく記録することができない
	(問題解決) 実験・観察の手法	実験ノート レポート	研究の基礎となる手法に加え、正確な測定ができる	研究の基礎となる手法が正しく身についている	研究の基礎となる手法が正しく身についていない
	(発表・討論) プレゼンの技能	発表の様子	適切な声量で、スライドだけでなく、聴衆を見て、発表できる	適切な声量ではあるが、ときどき原稿を見ながら発表している	声が小さく、原稿のみを見て発表している
思考・判断・表現	到達目標	多角的、複合的に事象を捉え、数学や理科などに関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高める。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	(課題設定) 仮説の設定	実験ノート レポート	論理的に考えて、仮説が立てられている	論理的ではないが仮説が立てられている	仮説が立てられない
	(問題解決) 実験計画 実験条件	実験ノート レポート	計画が具体的に示され、論理的に適切な実験条件で実験できる	計画が示され、適切な実験条件で実験できる	計画も実験条件も示すことができない
	(問題解決) 実験結果の考察	実験ノート レポート	得られたデータを適切なグラフ、表に示し、そこから論理的な考察ができる	得られたデータを適切なグラフ、表に示し、そこから考察ができる	得られたデータを適切なグラフ、表に示し、そこから適切な考察ができない
	(発表・討論) スライドのわかりやすさ	作成の様子 スライド	グラフや表、写真を用いており、全体の流れも適切である	グラフや表、写真のスライドもあるが、文字が多く、全体の流れがつかみにくい	グラフや表、写真のスライドもあるが、文字が多く分かりにくい
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	様々な事象や課題に主体的に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度、探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度及び倫理的な態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	(課題設定) 課題発見	実験ノート レポート	自ら課題を発見し、検証可能な現象を考え、適切な課題を設定することができる	過去の実験結果などから、疑問点を見つけ適切な課題を設定することができる	新たな疑問点を考えようとしていない
	(問題解決) 結論をまとめる	実験ノート レポート	実験データから論理的な結論を導きだし、自分なりにまとめることができる	実験データから論理的な結論を導きだし、自分なりにまとめることができる	実験データから論理的な結論を導きだせるが、まとめることができない
	(発表・討論) スピーチ力 討論	発表の様子	強調したいことを相手に伝え、お互いの意見を理解し、討論できる	強調したいことを相手に伝え、お互いの意見を理解することができる	自分の意見を伝えられず、相手の意見も理解できない

